

全国の幼稚園・保育園の子どもたちを“思いやり心”で結ぶ
子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」
～岩手県山田町の保育園、3園合同「どんぐり拾い会」のご案内～

子どもの森づくり運動は、「木を植えて子どもの心を育む」をテーマに、一貫した森づくり活動を通じて、幼稚園・保育園の子どもたちに、五感に訴求する本物の自然体験と環境学習の場を提供し、もって「生きる力」を育むことを目指す全国運動です。2008年から活動を始め、現在、全国で60園を超える園にご参加いただいています。（子どもの森づくり運動の活動詳細については、公式ホームページをご参照願います。）

2012年秋、そんな「子どもの森づくり運動」が、これまでの活動に積み上げる「東日本大震災」被災地支援活動として『子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」』に取組みます。①東北の幼稚園・保育園の子どもたちが被災地で拾って送ってくれた“どんぐり”を、②全国の幼稚園・保育園の子どもたちが、それぞれの園で苗木に育て、③3年後に被災地に届けて植える活動です。

本活動で目指すことは、以下の項目です。

1) 東北の森の生物多様性的再生に寄与する

被災地で拾われたどんぐりから育てた苗木による、東北の森の生物多様性的再生活動に貢献すること。さらに、活動を通じて子どもたちに生物多様性保全への関心を持ってもらうこと。

2) 子どもたちの心に「共生の心」の種をまく

被災地の幼稚園・保育園の子どもたちと、全国の幼稚園・保育園の子どもたちが、活動を通じて互いに思い合い、やがて震災以降の未来を生きる子どもたちにとってもっとも重要な資質である「共に生きる（共生）心」を育ててもらおうこと。

3) 「東北復興グリーンウェイブ」を世界の「グリーンウェイブ」へ

全国の幼稚園・保育園の子どもたちが参加する、子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」で育てられたどんぐりの苗木を、2014年5月の「グリーンウェイブの日」（別紙注ご参照）に被災地に植えることにより、世界の子どもたちの環境活動と繋げること。

活動は、2012年の秋に開催される、東北の保育園の子どもたちによる被災地での「どんぐり拾い会」から始まります。今回は、岩手県山田町の三つの保育園が合同で参加してくれます。

わたしたちは、このような小さな子どもたちの心の支援活動を、できるだけ多くの方に知ってもらい、活動を大きく広げたいと願っております。お忙しいところ恐縮ですが、本活動の趣旨をご理解いただき、広報にご協力賜ります様お願い申し上げます。

2012年10月

NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク(子森ネット)

■どんぐり拾い会実施概要

①日 時	2012年10月24日(水) 10:00～11:00 (少雨決行)
②会 場	「豊間根保育園」 岩手県下閉伊郡山田町豊間根第3-177-10
③活動参加園	社会福祉法人三心会 ①山田町第一保育所 ②豊間根保育園 ③織笠保育園
④スケジュール (予定)	<p>10:00 集合</p> <p>関係者ごあいさつ</p> <p>子森ネットあいさつ(活動趣旨、諸注意)</p> <p>どんぐり拾い</p> <p>* 拾ったどんぐりを水につけて選別</p> <p>プランターへの植ええ</p> <p>どんぐりの贈呈式 (園児 ⇒ 子森ネット)</p> <p>11:00 終了予定</p> <p>* 上記スケジュールは天候等によって変更があり得ます。</p>



* (注)「グリーンウェイブ」について

生物多様性条約事務局は、国連が定める「国際生物多様性の日」(5月22日)に、世界各地の青少年、子どもたちの手でそれぞれ地域で植樹等を行うことを「グリーンウェイブ」活動として呼びかけています。活動内容は、公式ホームページによって、世界中に発信されます。

■会場(豊間根保育園)アクセスMAP



<本件に関する問合せ先>

NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク(子森ネット)

Tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264 Mailto:info@kodomonono-mori.net

●子どもの森づくり運動公式ホームページ <http://www.kodomonono-mori.net>

■種ひろい会参加園からのメッセージ ～山田町第一保育所 所長 阿部 哲雄氏～

昨年、3月11日の東日本大震災に伴う大津波により、当町の中心市街地は、大津波に流されるとともに、その後に発生した火災によって壊滅し、一面瓦礫の山と焦土と化してしまい、筆舌に尽くしがたい状態になりました。当保育所は、比較的高台に位置していることから、私でさえ想定していなかった大津波は、当保育所まで押し寄せ、園舎は、床上浸水して一面泥をかぶってしまいました。



<園庭に避難、お着替え、点呼>

その後、避難所での不自由な生活を余儀なくされた子どもたちが、相当数に上ったことと保護者の方々の毎日の負担を少しでも軽減できればと、保育所の早期再開を目指したのですが、最低限のライフラインである電気と水道の復旧のめどが立たない困難な状況の日々が続き、保育所を再開する判断が、なかなかできませんでした。3月末になって、やっと電気の復旧のめどが立ったことから、4月7日からの保育所の再開を決断し、給食については、再開と同時に完全給食としました。



<保育所に押し寄せる津波>

震災当日、子どもたちは午睡から目覚めの時間でありましたので、あの地震の後、ただちに子どもたちを園庭に避難させ、着替えをさせるとともに点呼を行いました。その内、大津波警報が発令になりましたので、「まさかここまで津波は来ないだろう。」と思いつつも、「もしかしたら来るかもしれない。来たらこの子どもたちはどうなる。」という思いが強くなり、保育所裏山のさらに高台へ避難させました。



<津波が去って>

再開した当時の子どもたちには、表情がなく、目の焦点も定まらないような状態で、保育所の中は、子どもたちの歓声が聞こえることもなく静まり返った日々が続きました。本来の、子どもらしさを取り戻すまでに約半年を要し、11月頃になって歓声が普通に聞こえるようになり、現在では、普通の保育所の状態に戻っております。

私たちの使命は、保育所に入所している子どもたちが、大人になった時、夢と希望をもって、新たな町づくりの中心的な役割を担う人材に育てることだと考えております。震災以降今日まで、全国の保育所の関係者の皆さんや全国津々浦々の皆さんから、保育所再生に向けて、物心両面にわたって力強いご支援と、心温まる励ましをいただき、お陰様で、困難な時期を乗り越え、現在へ繋げることが出来ました。これらのご支援に心から感謝申し上げますと共に、これから始まる『子どもの森づくり運動「復興グリーンウェイブ」』の活動に期待したいと思います。 (*写真提供:山田町第一保育所)